



広島土砂災害 特集⑰

大型土囊で「土砂」は防げない



地肌に見える山が「怖い」!!

どれだけの雨に耐えられるのか?

住民の不安「消えず」



応急復旧計画・進捗状況の地元説明会

↑大型土囊

佐東公民館で開催された地元説明会では、被災者から次つぎに厳しい意見が出されました。「山の地肌が見えているのに、強い雨が降ったら避難しなければならぬ大型土囊では、何の対策にもならない。「無責任だ」との批判の声が相次ぎました。

「早急に、別日で説明会を設定し、地域ごとに被災者の声を聞いてほしい」との強い要望には、他の被災者からも拍手が起こりました。

●緑井8丁目では神社の裏山が崩れ、800近い墓石が流されたのに、この沢に対する応急復旧計画が示されていない。

●大型土囊を設置しても山の奥がどうなっているのか、ここにどんな手当をするのか教えてほしい。

●一ヵ月半で「ハイ、応急復旧は終わりました」と片づけられては困る。自分たちはここに住み続けなきゃならない。山・川・道路の管理は、国、県、市と別々かもしれないが、復旧に関しては、国が主導して、お金も人も投入して責任をもってほしい。

●地域ごとに復旧計画の責任者を決め、同じ人が地域に連日入り、地域の声を吸い上げ、国・県・市の担当につなげるといった方法をとってほしい。

●緑井・八木地域の各エリアごとに細かく分け、それぞれの地域の住民に復旧計画の説明をしてほしい。そうすれば地域も、細かい情報を市に伝えることができる。

●水は使えるようになったが、下水道が復旧していないので、結局、水も使えない。「断水状態と同じだ」と、早期にライフラインの復旧をしてほしい。



9月9日 佐東公民館での説明会

被災者の不安な気持ちを解消する

説明会を申し入れ

日本共産党市会議員団

市議団は説明会の終了後、道路交通局長に電話で要請。「地域別の細かな復旧計画の説明会で被災者の思いを聞くべき」と申し入れました。

局長は「細かく説明会を行う方向で検討すると約束しました。」



国は早期に「山の安全」を確保する 「砂防ダム」の整備計画を示すべき